

あいづまちなかアートプロジェクトのデジタルコンテンツの制作

インターフェース分野 横尾ゼミ A2201702 伊藤麻衣 A2201704 及川里恵 A2201708 鎌田侑香
A2201722 藤澤美沙 A2201731 渡邊ひなの

研究の背景

あいづまちなかアートプロジェクトは、2013 年より会津若松市内で毎年開催されている地域のアートイベントである。主な参加者層は40代以上であり、20代や 30 代の参加者が少ない。また、既存の WEB サイトや SNS アカウントはあるものの、そこからの認知も低いのが現状である。本研究では、既存の WEB サイトにはない情報を WEB サイトや SNS などのメディアで発信することで、より幅広い層へのあいづまちなかアートプロジェクトの認知につなげたいと考える。

研究の目的

あいづまちなかアートプロジェクトを広報するためのコンテンツとして、WEB サイトと動画を制作した。これらのコンテンツを発信することで多くの人にあいづまちなかアートプロジェクトを認知してもらい、参加のきっかけとしてもらうことを目的とする。

計画(研究のプロセス)

	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
WEB サイト	<ul style="list-style-type: none">素材整理	<ul style="list-style-type: none">取材	<ul style="list-style-type: none">サイトのレイアウト、構造 それを基にした 骨組みの制作	<ul style="list-style-type: none">jquery の導入	<ul style="list-style-type: none">素材の編集、挿入全体的なデザイン の見直し
動画	<ul style="list-style-type: none">SNS 発信		<ul style="list-style-type: none">素材から制作	<ul style="list-style-type: none">素材から制作	<ul style="list-style-type: none">投稿インタビュー 編集
SNS	<ul style="list-style-type: none">データ収集	<ul style="list-style-type: none">素材集め	<ul style="list-style-type: none">インタビュー 構想	<ul style="list-style-type: none">インタビュー 取材、編集	<ul style="list-style-type: none">フィードバックコンテンツ広報

図1 スケジュール

成果物

OWEB

<サイトの構造>

スマートフォン向けのサイトのため、少ない階層で目的のページにたどり着けるよう工夫した。ページ移動を少なくするため、一つひとつのページが縦長になるよう心掛けた。(図3)、(図4)

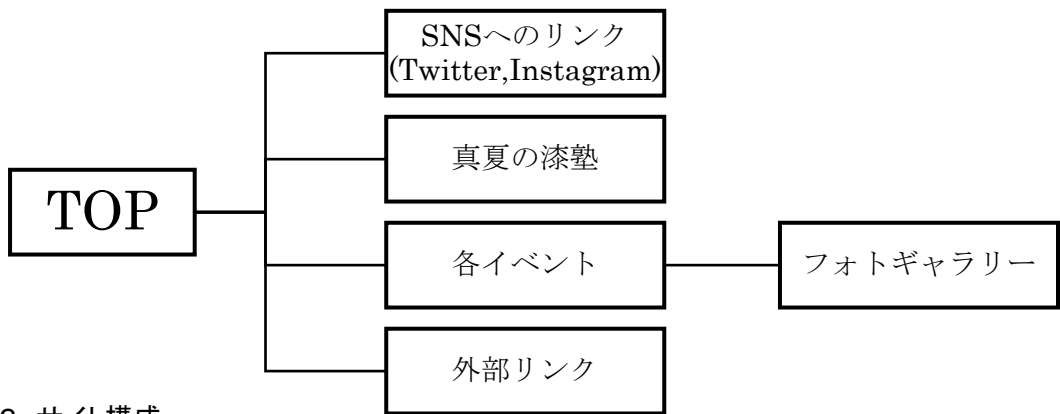


図2 サイト構成

＜サイトのキャプチャー画像＞

あいづまちなかアートプロジェクトの内容を手元で確認できるように、スマートフォンで閲覧することを前提としたページを作成した。jQuery mobile を用いて滑らかな挙動を実現させることができた。(図5)、(図6)

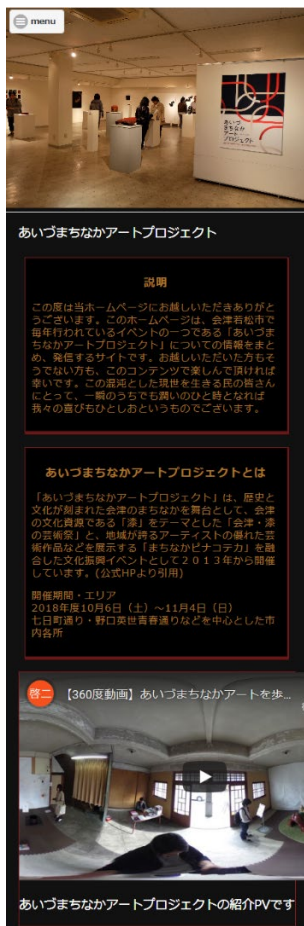


図3 トップページ



図4 各イベントページ



また、真夏の漆塾のページでは元来の漆が持っていた赤と黒のイメージを一新すべく、原材料である漆の木の柔らかな緑を基調とした配色を施した。加えて、フォトギャラリーやパノラマ写真もページに取り入れた。



図5 携帯で閲覧した際のイメージ



図6 パソコンで閲覧した際のイメージ

○動画(1)素材から制作した動画



・「鉄錆蒔絵ができるまで」

〈内容〉

八月に開催された、真夏の漆塾四日目の鉄錆蒔絵講習会での取材で得た鉄錆蒔絵プレートの製作工程の映像を使用し、制作した。昨今のTwitter や Instagram といった SNS でよく見られる料理動画を意識して編集した。SNS 上で気軽に見てほしいと考え、映像の尺は一分とした。

(図7)

図7 鉄錆蒔絵の映像タイトル



図 8 動画内のキャプチャ

・「一本の丸太からお椀ができるまで」

〈内容〉

真夏の漆塾二日目に訪れた奥会津博物館で、一本の丸太からいくつものお椀が作られる様子を撮影し、制作した。丸太を削りお椀の形になっていく一連の作業を簡単かつ分かりやすいようにまとめた。



図 9 漆器の紹介

・「次世代につなぎたい漆のあれそれ」

〈内容〉

漆が工芸品や塗りに使われることは有名だが、それに関わる取り組みはあまり聞いたことがないと思い、この動画を制作した。真夏の漆塾とあいづまちなかアートプロジェクトを紹介し、漆が育つ過程や育成にかかる手間を、写真を使って説明した。

○動画(2)学生作家へのインタビュー「うるしとわたし～制作学生の声～」

〈制作コンセプト〉

開催中の取材を通し、作品に込められた思いやメッセージについて詳しく知りたいという気持ちが強くなった。実際に作品を鑑賞した後に、作者の思いやメッセージを知ることができれば一度見た人でも二度楽しめるのではないかと考え、制作した。また、あいづまちなかアートプロジェクトには多くの学生作家が出展している。学生が参加していることを動画で発信することで、視聴者に少しでも関心を持ってもらいたいと考えた。



〈内容・構成〉

今年度の「うるし その可能性と未来」展出展作品に込めた思いや意識したことに加え、あいづまちなかアートプロジェクト 2018 のテーマである「過去と私 私と未来」を手掛かりとして、学生作家と漆との出会い(過去)、漆と現在の関わり(現在)、漆とこれから(未来)についてのお話を伺った。(図 10)



図 10 インタビューの様子

考察

あいづまちなかアートプロジェクトの様子を取材し、WEB や SNS といったメディアで発信することによって、あいづまちなかアートプロジェクトが地域の方に支えられて成り立っているイベントであることを実感した。SNS のデータ収集に関しては未だ余地を残す結果となったが、WEB や動画などで今年度のあいづまちなかアートプロジェクトを来年度に繋げることができたのではないかと考える。